

「初監督作で撮影も編集も不安だらけ。完成させるのに必死だった」と語る田代監督（京都市下京区）



ら2年間撮影できなかった。「被写体の町民や、映画の支援者との交流は続き、『絶対完成させる』と腹をくくった」と語る。05年に撮影を再開。対象を入植した2組の夫婦に絞ってまとめた。

「素朴な生活追った  
ドキュメンタリー」

「空想の森」の田代陽子監督

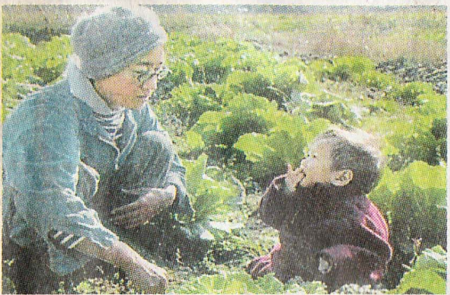
北海道の大自然のなかで、ほそぼそと農業を営む人々を追ったドキュメンタリー映画「空想の森」（田代陽子監督）Ⅱ写真Ⅱが、19日から大津市の滋賀会館シネマホールで上映される。作品で紹介される便利さや富と縁遠くても充実した暮らしに共感が高まっている。

田代監督が映画を志すきっかけは1996年の北海道・新得町で開かれた小さな映画祭だった。「ドキュメンタリー映画を初めて見て劇映画にはない面白さにはまった」。

映画祭を通じて、さまざまな問題を抱えて都会を離れ、共同生活しながら農業を営む人々と知り合った。「彼らの自然と向き合う素朴な生活に、普遍性を感じた」と振り返る。2000年に準備を始め、02年春からカメラを回した。

08年に完成後、各地のミニシアターや映画祭で上映。口コミで評判が広まり、名古屋市など10カ所で自主上映会が開かれた。現在も彦根市などで上映会の準備が進む。田代監督は「要望があればフィルムを持ってどこにでも行く」と張り切る。

19〜28日(21日は除く)。毎回、監督が舞台あいさつする。問い合わせは滋賀会館シネマホール ☎077(522)6262。



資金難や人材難で02年か